

平成18年3月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過し低気圧の通過時にはほぼ全国的に曇りや雨（北日本では雪）の天気となりました。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となったため、日本海側の地方では、曇りがちで雨や雪、太平洋側の地方では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、平年に比べて北海道地方では少なく、九州地方では多くなりましたが、そのほかの地方はほぼ平年と同様でした。降水量は東日本と西日本の日本海側の地方と北日本では平年より多く、特に北海道地方では平年の300%を上回った観測地点がありました。そのほかの地方では平年より少なく平年の70%を下回った観測地点もありました。平均気温は北日本と東日本では平年より高く、特に北海道地方では平年より2以上高くなった観測地点もありましたが、西日本では平年より低くなりました。

【3月の検証結果】

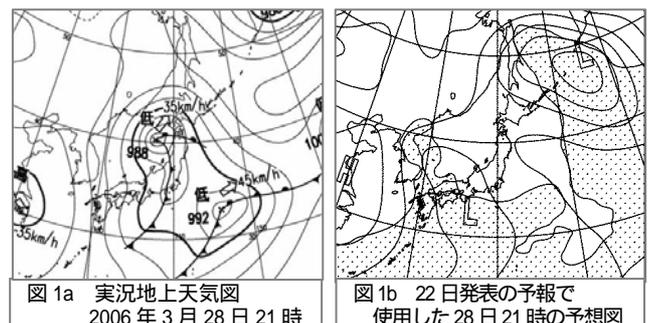
「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^{（注）}より3ポイント高い70%でした。ほぼ全国的に例年より高く、特に北陸、中国、九州北部地方では6から7ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3小さい2.5で、ほぼ全国的に例年より小さく特に北海道では0.4小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3小さい2.1で、特に北海道、四国、九州南部地方では0.4小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の週間天気予報から】

週間天気予報では1日の天気を簡潔にまとめて表現して予報することから、雨が降ると予想した時間帯によっては降り始めや降り終わりの時間のずれで、日々の予報と実際の天気が違ってしまいます。

3月28日から29日にかけて日本付近を低気圧が通過して、全国的に雨が降りました。22日に週間天気予報を発表する際に使用した予想図では28日（6日後）から29日（7日後）にかけて低気圧が日本付近を通過する予想になっていました（図1b、2b）ので、東京地方では両日とも雨が降る予報を発表しました。



実際は28日の夜に低気圧が通過して(図1a、2a)、関東地方では28日の深夜に雨が降りましたが(図3)、日付が変わって29日になってからは、北部の一部を除いて1mm以上の雨はほとんど降りませんでした。

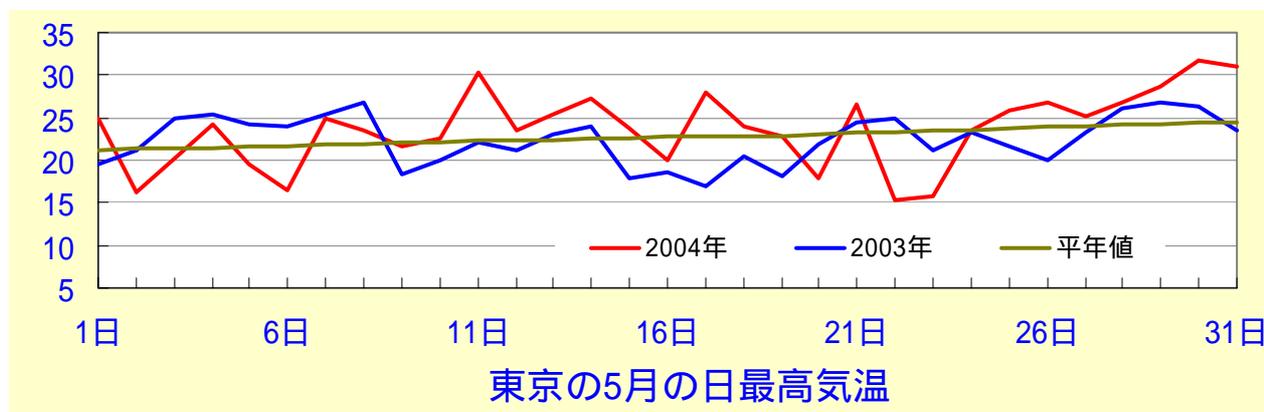
週間天気予報では予報期間の後半になるほど予想誤差が大きくなります。このため、前述の例のように2日にわたって雨が降りやすい天気が予想されたときには、2日連続で雨を予報することがあります。このような場合、新しい予報になるにつれて予報誤差が小さく

なり、どちらか一方の日だけに雨が予想されることもあります。週間天気予報は新しい資料をもとに、日々更新されますので、予報の変化にも着目しつつ利用して下さい。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は気温が上がって時には西日本や東日本で気温が30を超えることもあります、気温の経過は年によって大きく異なります。

2003年は平年に比べて上旬は気温が高く、中旬、下旬は低めに経過しました。東京の日最高気温は、17日の17.0が最も低く、最も高かったのは8日の26.9で、30以上になった日は1日もありませんでした。一方、2004年は平年に比べて気温が高い日が多かったのですが変動も大きくなりました。東京の日最高気温は30度以上となった日が3日もあり、30日には31.7と真夏のように暑くなりましたが、1週間前の23日には4月上旬並みの15.8でした。



5月は野外活動に適した、晴れて暖かい日が多い時期で、野外での行事やレジャーなどの予定も多くなります。週間天気予報を利用される際には、天気だけでなく気温の予想にも注意して準備することをお勧めします。

